

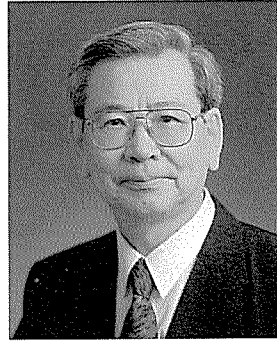
著作目録（柏原啓一）

著者	東北大学史料館
号	678
発行年	1999-03
URL	http://hdl.handle.net/10097/00065495

柏原啓一教授著作目錄

平成十一年三月
東北大学記念資料室
(著作目録第六七八号)

柏原啓一教授略歴



所 属 文学部
本 籍 地 東京都

生年月日 一九三五年五月一日生

〔学歴〕

一九六一年三月 東京大学文学部哲学科卒業
一九六四年三月 東京大学大学院人文科学研究科哲学専門課程修士課程修了
一九六六年四月 同博士課程退学

〔職歴〕

一九六六年五月 北海道大学文学部助手（～一九六七年三月）
一九六七年四月 埼玉大学教養学部講師（～一九六八年三月）
一九六八年四月 埼玉大学教養学部助教授（～一九六九年三月）
一九六九年四月 お茶の水女子大学文教育学部助教授（～一九七三年三月）

一九七三年四月
東北大学文学部助教授（～一九七九年三月）
一九七九年四月
東北大学文学部教授（～現在）
一九八七年三月
文部省在外研究員（フランクフルト大学及びチュービンゲン大学）（～一九八八年一月）
一九九五年四月
東北大学文学部長（～一九九七年三月）

〔学会役員〕

一九六三年四月
日本キルケゴール協会委員（～一九七三年三月）
一九六五年四月
哲学会委員（～一九六六年四月）
一九六八年四月
実存主義協会委員（～一九七六年三月）
一九七二年四月
日本倫理学会委員（～一九七三年三月）
一九七五年四月
東北哲学会委員（～現在）
一九七六年四月
実存主義協会理事（～一九八五年三月）
一九七九年四月
日本哲学会委員（～一九九六年三月）
一九八九年四月
文部省科学研究費審査委員（～一九九一年三月）
一九九二年四月
日本シェリング協会理事（～一九九五年三月）

著 作 目 録

〔編著書・著書・共著書〕

- 1 『現代の哲学』、(藤田健治、茅野良男と共編)、現代哲学選書第三卷、学文社 一九七〇年一〇月
- 2 『哲学の歴史』、(茅野良男と共編)、現代哲学選書第二卷、学文社 一九七一年一〇月
- 3 『ホモ・クワエレンス 論集一』、以文社 一九七七年二月
- 4 『ホモ・クワエレンス 論集二』、以文社 一九八〇年九月
- 5 『西洋思想の歩み——ロゴスの諸相』、(岩田靖夫、坂口ふみ、野家啓一と共著)、有斐閣 一九九三年一〇月

〔論文〕

- 1 「キルケゴールとシェリング——可能性から現実性への移行の問題」、『理想』三六〇号、理想社 一九六三年五月
- 2 「シェリング解釈のひとつの試み——P・ティリッヒの場合」、『哲学雑誌』七九卷七五一号、有斐閣 一九六四年一〇月
- 3 「シェリングとキルケゴール——自然とイロニーとに根差すもの」、『実存主義』三〇号、理想社 一九六四年十一月
- 4 「キルケゴールに於ける可能性の問題——ハイデガーを手掛りにして」、『哲学雑誌』八一卷七五三号、有斐閣 一九六六年一〇月
- 5 「キルケゴールにおける絶望の意味」、『理想』四一一号、理想社 一九六七年八月
- 6 「解釈学的悪論の試み——キリスト教における罪の問題へのひとつの接近」、『実存主義』四三三号、理想社 一九六八年三月
- 7 「キルケゴール『死にいたる病』」、「『理想』四二二号、理想社 一九六八年七月

- 8 「キルケゴール（近代哲学と実存主義の關係）」、『実存主義講座 第一卷 実存思想の歴史』、理想社 一九六八年七月
- 9 『アメリカ』（カフカ）、『実存主義』四六号、理想社 一九六九年一月
- 10 「デカルトの懷疑とキルケゴールの懷疑」、『実存主義』四九号、理想社 一九六九年一〇月
- 11 「現代を哲学すること」、『現代哲学選書 第三卷 現代の哲学』、学文社 一九七〇年一〇月
- 12 「現代神学」、『現代哲学選書 第三卷 現代の哲学』、学文社 一九七〇年一〇月
- 13 「疎外と自由」、『現代哲学選書 第三卷 現代の哲学』、学文社 一九七〇年一〇月
- 14 「生命道——キリスト教における『道』について」、『実存主義』五四号、理想社 一九七〇年一二月
- 15 「ルネサンス期と一七世紀の哲学」、『現代哲学選書 第二卷 哲学の歴史』、学文社 一九七一年一〇月
- 16 「非神話化と世俗化——人間存在の終末論的構造に関して」、『哲学雑誌』八六卷七八号、有斐閣 一九七一年一〇月
- 17 『夢十夜』（夏目漱石）——十夜一夜の夢と現つと、『実存主義』六〇号、以文社 一九七二年六月
- 18 「問いとその機能」、『現代哲学選書 第一卷 哲学への道』、学文社 一九七三年五月
- 19 「主観⇌客観の図式——哲学的再検討への一提言」、『大学キリスト者』五一号、日本YMCA同盟 一九七三年五月
- 20 「実存の終末論性（実存の宗教性）」、『実存主義講座 第六卷 宗教』、理想社 一九七三年五月
- 21 「中間時としての歴史——終末史観の倫理性」、『歴史』、理想社 一九七三年一〇月
- 22 「プロテスタント神学（実存主義の批判）」、『実存主義講座 第八卷 実存思想の可能性』、理想社 一九七四年三月
- 23 「歴史の終わりと始まり——キルケゴールの歴史哲学とそれにもとづくささやかなレーヴィット批判」、『理想』四九一号、理想社 一九七四年四月
- 24 「宗教的人間観（一）——欠如の自覚」、『放送大学（仮称）実験番組 現代の人間観』、日本短波放送 一九七四年八月

- 25 「宗教的人間観(2)——超越への関心」、『放送大学(仮称)実験番組 現代の人間観』、日本短波放送 一九七四年 八月
- 26 「自由の領域での歴史哲学——キルケゴールの瞬間に触れて」、『社会科学の方法』六七号、お茶の水書房 一九七五年 一月
- 27 「シェリング積極哲学の皮肉」、『理想』五一〇号、理想社 一九七五年 二月
- 28 「終末論の世界」、『東北大学基督教青年会会報』一四号、東北大学基督教青年会 一九七六年 一月
- 29 「歴史の自然化と非宗教化——その克服の糸口をトレルチに求めて」、『大学キリスト者』六〇号、日本YMCA同盟 一九七六年 八月
- 30 「コミュニケーションの問題(人間と社会)」、『放送大学実験番組 世界観の探求』、東北大学教育学部大学教育学教育開放センター 一九七七年 九月
- 31 「歴史を超えるもの(人間と歴史)」、『放送大学実験番組 世界観の探求』、東北大学教育学部大学教育学開放センター 一九七七年 九月
- 32 「ロゴスとしての言葉(人間と言葉)」、『放送大学実験番組 世界観の探求』、東北大学教育学部大学教育学開放センター 一九七七年 九月
- 33 「『三四郎』(夏目漱石)——自己と世界との関わり」、『理想』五四五号、理想社 一九七八年 一〇月
- 34 「キルケゴールにおけるギリシア思想とヘブライ思想——反復の概念を中心に」、『ギリシア思想とヘブライ思想』、以文社 一九七八年 一〇月
- 35 「運命と摂理——ニヒリズムとの連関で」、『実存主義』八五号、以文社 一九七八年 十二月
- 36 「キリスト教とニヒリズム」、『日本の神学』一八号、教文館 一九七九年 一月
- 37 「歴史哲学の成立根拠」、『現代哲学選書 第八巻 歴史の哲学』、北樹出版 一九八〇年 五月

- 38 「ハイデガーの〈転回〉について——キルケゴールを顧慮しつつ」、『思索』一三号、東北大学哲学研究会一九八〇年一〇月
- 39 「神の死」に立合った人びと——フォイエルバハとニーチュを中心」、『神観念の比較文化論的研究』、講談社一九八一年二月
- 40 「歴史における意味と無意味の相剋」、『哲学雑誌』九六巻七六八号、有斐閣一九八一年一〇月
- 41 「キルケゴールにおける実存の主観性」、『近代以降の哲学における超越論的主観性の展相とその現代的意味』（科研費報告書）、東北大学一九八三年三月
- 42 「永遠回帰の歴史哲学」、『理想』六〇〇号、理想社一九八三年五月
- 43 「受苦としての人間——ルターとキルケゴール」、『西洋における生と死の思想』、有斐閣一九八三年六月
- 44 「教育の源流を探る——モンテーニュ」、『悠』一卷九号、ぎょうせい一九八四年一二月
- 45 「現代とニヒリズム」、『新岩波講座哲学 一三 超越と創造』、岩波書店一九八六年六月
- 46 「主観と客観」、『風』四六四号、風発行所一九八七年四月
- 47 「歴史意識——相対主義の愉悅」、『大学キリスト者紀要』六号、大学キリスト者の会一九八九年二月
- 48 「理解の歴史性——解釈学を特徴づけるもの」、『東北哲学会年報』五号、東北哲学会一九八九年五月
- 49 「主客図式の克服と解釈学の課題」、『東北大学基督教青年会会報』二五号、東北大学基督教青年会一九八九年八月
- 50 「教会にキリスト教を導入する試み——S・A・キルケゴール」、『命題コレクション哲学』、筑摩書房一九九〇年十一月
- 51 「信仰の尊厳——信仰の自由をめぐる」、『東洋学術研究』一二六号、東洋哲学研究所一九九一年六月
- 52 「自然と歴史」、『プロセス思想』四号、日本ホワイトヘッド・プロセス学会一九九一年九月
- 53 「臓器移植について——哲学の立場から」、『公衆衛生情報みやぎ』一八二号、宮城県公衆衛生協会一九九二年二月

- 54 The Dignity of Faith, with Reference to Freedom of Faith, in: The Journal of Oriental Studies, vol.4, The Institute of Oriental Philosophy, 1992
 - 55 「救いにあずかる生命——ルターとキルケゴールの死生観」、『人間、その生と死』、東北大学教育学部大学教育開放センター
 - 56 「自然と歴史——近世の哲学」、『西洋思想のあゆみ——ロゴスの諸相』、有斐閣
 - 57 「終末論の諸相」、『『終わり』からのメッセージ——世紀末を迎えて』、東北大学教育学部大学教育開放センター
 - 58 Bascho und die Reise, in : Moralia, vol.2, The Association of Ethical Studies in Tohoku Univ., 1995
 - 59 「神話と啓示——シェリングに寄せて」、『シェリング年報』三号、日本シェリング協会
 - 60 「俳諧から俳句へ——正岡子規における近代化」、『風』五六六号、風発行所
 - 61 「終末論と救済——歴史の生氣回復を求めて」、『岩波新哲学講義 八 歴史と終末論』、岩波書店
 - 62 「子規の写生論——ありのまま神話」、『風』六〇一号、風発行所
- 【訳書】
- 1 細谷貞雄編『ハイデッガー』（細谷貞雄と共編訳）、世界の思想家二四、平凡社
 - 2 シェーラー『宗教の諸問題』（亀井裕・岩谷信と共訳）、シェーラー著作集七、白水社
 - 3 キルケゴール『野の百合と空の鳥から何を学ぶか』（後藤嘉也と共訳）、キルケゴールの講話・遺稿集三、新地書房
 - 4 エーペリンク『祈りについて——主の祈りに関する説教』、現代キリスト教思想叢書一一、白水社

【事典類】

- 1 『現代世界百科大事典(全三巻)』、講談社、(アグリコラ、アグリッパ、カルダーノ、カンパネラ、キルケゴール、死に至る病、シャロン、スアレス、テレジオ、ニコラウス・クザーヌス、バトリッツイ、バラケルスス、反対の一致、ビコ・デラ・ミランドラ、フィチーノ、ブルーノ、ブレトン、ベーム、ボンボナツィ、ロイヒリンの二〇項目)
一九七一年一〇月
〜一九七二年四月
- 2 『万有百科大事典(ジャンル・ジャボニカ) 第一巻文学篇』、小学館、(あれかこれか、キルケゴール、死にいたる病、ヤスバースの四項目)
一九七三年
- 3 『万有百科大事典(ジャンル・ジャボニカ) 第四巻哲学宗教篇』、小学館、(寛容、ニーバー、人間性、バルト、ブルトマン、ブルンナー、ロータッカーの七項目)
一九七四年
- 4 『大百科事典グラントユニバース(全二八巻)』、講談社、(カルダーノ、カンパネラ、キルケゴール、死にいたる病、ニコラウス・クザーヌス、バラケルスス、反対の一致、フィチーノ、ブルーノ、ブレトン、ベーム、ボンボナツィ、ロイヒリンの一三項目)
一九七七年四月
- 5 『西洋哲学の基礎知識』、有斐閣、(宗教改革、自由意志論争、キルケゴールの三項目)
一九七七年六月
- 6 『ニーチェ物語——その深淵と多面的世界』、有斐閣、(オーヴァーベック、イエス像、無への意志の三項目)
一九八〇年一二月
- 7 『世界の名著早わかり事典』、主婦と生活社、(キルケゴール「死に至る病」の項)
一九八四年九月
- 8 『大百科事典(全一六巻、のちに全三一巻)』、平凡社、(キルケゴール、実存主義、死に至る病、他者、不安、ヤスバースの六項目)
一九八四年十一月
〜一九八五年六月
- 9 『世界宗教大事典』、平凡社、(キルケゴール、実存主義、死に至る病、不安、ヤスバースの五項目)
一九九一年二月
- 10 『ニーチェ辞典』、弘文堂、(批判神学、歴史神学の二項目)
一九九五年二月

- 11 『岩波哲学思想事典』、岩波書店、(キルケゴール、限界状況、ゴッタルテン、「死に至る病」、単独者、「哲学」、非神話化、不安、ヤスバースの九項目)
- 一九九八年三月

【書評】

- 1 Herbert C. Wolf, Kierkegaard and Bulmann, The Quest of historical Jesus, 1965 『聖書雑誌』一〇号、日本基督教団出版局
- 一九六七年一月
- 2 「キルケゴール著作集『イロニーの概念(上・下)』」、『実存主義』四〇号、理想社
- 一九六七年六月
- 3 「信太正三『永遠回帰と遊戯の哲学』」、『実存主義』五〇号、理想社
- 一九六九年二月
- 4 「金子武蔵編『言語と論理』」、『実存主義』五八号、理想社
- 一九七一年二月
- 5 Grägor Malantschuk, Kierkegaard's Thought, tr. H. V. Hong, 1971 『思索』七号、東北大学哲学研究会
- 一九七四年一〇月
- 6 「小川圭治『主体と超越』」、『実存主義』七四号、以文社
- 一九七五年二月
- 7 「小川圭治『キルケゴール』橋本淳『趙遙する哲学者』」、『聖書と教会』一七一号、日本基督教団出版局
- 一九八〇年六月
- 8 「ブルトマン著作集『神学論文集Ⅱ』」、『本のひろば』二七九号、キリスト教文書センター
- 一九八一年九月
- 9 「岩崎武雄著作集(全一〇巻)」、『日本読売新聞』二二三六号、日本出版協会
- 一九八一年二月
- 10 「キム『単独者と普遍——キルケゴールにおける人間の自己実現への道』」、『実存思想論集』四号、実存思想協会
- 一九七九年六月

【座談会】

- 1 「ヤスバース哲学の意義」(鈴木三郎、信太正三、飯島宗享、上妻精、吉沢伝三郎と座談)、『実存主義』四八号、理想社
- 一九六九年七月

- 2 「キルケゴールと現代思想」(小川圭治、茅野良男、児島洋と座談)、『実存主義』四九号、理想社 一九六九年一〇月
- 3 「キルケゴールと現代——日本のキルケゴール研究を回顧しつつ」(大谷愛人と対談)、『理想』五五五号、理想社 一九七九年八月

『その他の抄録』

- 1 「山崎小学校戦時疎開学園」、『東京都世田谷区立山崎小学校創立二〇周年記念誌』、山崎小学校 一九六二年二月
- 2 「交わりについて」、『鳶の教会』六号、札幌北光教会 一九六七年三月
- 3 「性」、『胎動』四号、埼玉大学教養学部学友会 一九六九年一月
- 4 「ディアログス——日下部という出来事」、『日下部裕一君追悼文集』、日下部裕一君追悼文集刊行委員会 一九七二年三月
- 5 「希望の教会」、『代田教会会報』一〇四号、代田教会 一九七二年四月
- 6 「一冊の本——アンティ・クリマクス『死にいたる病』」、『理想』五五〇号、理想社 一九七九年三月
- 7 「森の道」、『世界の名著 ハイデガー 付録』、中央公論社 一九八〇年二月
- 8 「ホモ・クウェレンスということ」、『泉』三三三号、文化総合出版 一九八一年八月
- 9 「仙台」、『代田教会会報』二二三号、代田教会 一九八一年二月
- 10 「体外受精と技術文明」、『河北新報(朝刊)』 一九八三年一〇月二七日
- 11 「私の初詣」、『俳句文学館』一五三号、俳人協会 一九八四年一月
- 12 「教会史としての寮」、『溪水』、東北大学基督教青年会 一九八四年三月
- 13 「暮らしと哲学」、『河北新報(朝刊)』(月曜・木曜連載) 一九八四年四月二日
 〆一九八五年三月二八日

(1)愛知の愛、(2)愛知の知、(3)電話と対話、(4)俳句と哲学、(5)自然と歴史、(6)言葉の力、
 (7)花見の宴、(8)考える足、(9)遊びの心、(10)輝く世界、(11)事実と価値、(12)運命、(13)剃刀、
 (14)森の道、(15)鏡の世界、(16)奇人、(17)神話、(18)旅人、(19)なぜの問い、(20)時の記念日、
 (21)先入見、(22)批判、(23)霊肉救済、(24)収集癖、(25)自由、(26)論理の矛盾、(27)主客転倒、
 (28)自殺、(29)超自我、(30)百科事典、(31)闇の感覚、(32)音楽と人生、(33)地方の時代、(34)勇氣、
 (35)教養、(36)祭りの心、(37)原爆忌、(38)迷路、(39)平和、(40)死、(41)二重真理、(42)水、(43)新
 鮮な反復、(44)庭の生態学、(45)天国の愛、(46)瞬間の美学、(47)十五夜、(48)法、(49)ある日系人、
 (50)自由諸科、(51)ソフィスト、(52)眼鏡、(53)阪急優勝、(54)月並、(55)図書館、(56)懷疑論、
 (57)ものごと、(58)模写説、(59)ひげ、(60)道德教育、(61)読書、(62)写真嫌い、(63)洞窟、(64)無、
 (65)不易流行、(66)根源語、(67)結婚、(68)労働、(69)終末論、(70)享楽主義、(71)人権、(72)パラダ
 イム、(73)即天去私、(74)公害、(75)日曜大工、(76)最大公約数、(77)クリスマス、(78)自叙伝、
 (79)年忘れ、(80)去年今年、(81)雪、(82)倫理、(83)創造的進化、(84)出会い、(85)七福神、(86)人間
 主義、(87)劣等感、(88)スコラ哲学、(89)伝統こけし、(90)人格、(91)世論、(92)不安、(93)理想郷、
 (94)言語ゲーム、(95)恋文、(96)随筆の思想、(97)春闘と税制、(98)驚草、(99)責任倫理、(100)散歩、
 (101)科学万博、(102)春彼岸、(103)量と質、(104)ユーモア)

14 「未来を開くために」、『河北新報(朝刊)』

15 「遊びの気がまえを生かせ」、『マンスリーアプローチ受験講座 社会』一〇四号、福武書店

16 「価値の多様化時代——人間らしき謳歌の証左」、『河北新報(朝刊)』

17 「大きな対話のもとでの小さな質問」(日本哲学会特別報告への代表質問)、『哲学』三六号、法政大学出
 版局

18 「序」、『畠山義雄句集 布袋草』、きたごち俳句会

19 「ドイツの森」、『東京新聞』

20 「序」、『荒木比佐歌集 木蔭抄』、私家版

一九八五年一月一日

一九八五年一月

一九八六年二月一三日

一九八六年五月

一九八七年三月

一九八八年二月九日

一九九〇年一月

- 21 「自註現代俳句シリーズ『宮田正和集』を読んで——実存の根拠の剔出」、『風』四九九号、風発行所 一九九〇年三月
- 22 「仙台・亀岡八幡より多賀城碑」、『奥の細道を歩く』、東京新聞出版局 一九九〇年八月
- 23 「象潟」、『奥の細道を歩く』、東京新聞出版局 一九九〇年八月
- 24 「沢木欣一句集『往還』の背景」、『欣一俳句鑑賞』、東京新聞出版局 一九九一年九月
- 25 「選句、その方法と現場——欣一選とわたしの選、即物具象」、『俳壇』九三号、本阿弥書店 一九九一年九月
- 26 「佐藤和夫『海を越えた俳句』を読んで——外からの日本文化論との対話を」、『風』五一八号、風発行所 一九九一年一〇月
- 27 「北海道・東北の風土と俳枕」、『北海道・東北ふるさと大歳時記』、角川書店 一九九二年六月
- 28 「宮城の自然と風土」、『北海道・東北ふるさと大歳時記』、角川書店 一九九二年六月
- 29 「叡智の鏡」、『日本学園百年史』、日本学園 一九九三年三月
- 30 「鳴子・山刀伐峠」、『芭蕉吟行案内』、俳人協会 一九九三年一〇月
- 31 「序」、『横山たかし句集 独航船』、きたごち俳句会 一九九三年二月
- 32 「うたの舞台——袖の渡り」、『朝日新聞』 一九九四年九月三〇日
- 33 「随想」、『河北新報（夕刊）』（月曜連載）
（1）還々暦、（2）森の道、（3）心と体、（4）狭布の里、（5）第二芸術、（6）ユーモア、（7）異文化理解、
（8）春と秋、（9）コイネー 一九九五年五月一日
　　〃六月二六日
- 34 「俳句に見る自然観——日本人の情緒はどこからやってくるのか（インタビュー記事）」、『ザ・シグナル』 一九九五年十一月
九八号、岩手県総務部人事課

- 35 「シェリングと『精神現象学』」、「ヘーゲル「精神現象学」入門」、有斐閣
一九九六年一月
- 36 「細見綾子句集『曼陀羅』——遊びの現象学」、「細見綾子俳句鑑賞」、東京新聞出版局
一九九六年一月
- 37 「同窓会会員名簿の刊行によせて」、「東北大学文学部同窓会会員名簿（平成七年版）」、東北大学文学部
同窓会
一九九六年二月
- 38 「研究科長あいさつ——門戸開放」、「東北大学大学院文学研究科社会人リフレッシュコース入学案内」、
東北大学大学院文学研究科
一九九六年二月
- 39 「まえがき」、「東北大学文学部の現況Ⅱ」、東北大学文学部
一九九六年三月
- 40 「卒業生を送る」、「東北大学卒業アルバム」、東北大学生生活協同組合
一九九六年五月
～一九九七年五月
- 41 「テーブル・トーク（インタビュー記事）」、『朝日新聞』
一九九六年六月二十四日
- 42 「柏原啓一文学部長インタビュー（インタビュー記事）」、『高校生に送る東北大学 97文系篇』、高校生
に送る東北大学企画委員会
一九九六年七月
- 43 「序」、「柏原潤子句集 遠花火」、きたごち俳句会
一九九六年十一月
- 44 「紙面センサー」、「河北新報（朝刊）」（二五日連載）
（1）次代見据えたコマ取材、（2）季節の変化に気配りを、（3）「適疎」の企画に新鮮さ、（4）流語蜚語
の責任不明確、（5）政党は「ちゃん」として、（6）過激取材の責任は重い）
一九九七年四月二五日
～九月一四日
- 45 「出会いの尊さ——原田しずえ句集『時鐘』」、「俳句四季」一九二号、東京四季出版
一九九七年六月
- 46 「俳誌『きたごち』一〇〇号への道筋回想（インタビュー記事）」、『河北新報（朝刊）』
一九九七年七月一〇日
- 47 「温もりのある写生——栗田やすし句集『遠方』を読んで」、「風」五八九号、風発行所
一九九七年九月

- 48 「入選句集の刊行に寄せて」、『みなみかた花菖蒲まつり俳句大会入選句集』、南方町商工観光課 一九九七年二月
- 49 「新理事長としてのご挨拶」、『東北大学基督教青年会会報』三三三号、東北大学基督教青年会 一九九八年二月
- 50 「小西甚一『俳句の世界——発生から現代まで』、『つん読』二七号、東北大学生生活協同組合 一九九八年四月
- 51 「日本列島の春——宮城」、『俳句』四七卷五号、角川書店 一九九八年五月
- 52 『句集 炎天』、紅書房 一九九八年八月

一九八五年七月に「きたごち俳句会」を創設、一九八九年四月より俳誌『きたごち』を創刊主宰し、月刊誌として編集発行。俳句作品を発表するかたわら、俳句随筆「風雲月露」を連載執筆。